

日本のトップ製薬企業を目指して

- 2010年総括と2011年計画 -

中外製薬株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
永山 治

2011.2.2/3

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。

実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

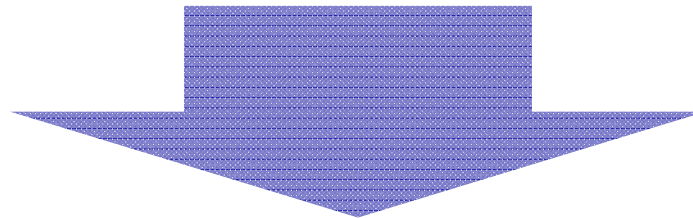
2010年12月期決算

**製商品売上高（タミフルを除く）は薬価改定分を補って伸長
利益はタミフル減収により減少**

(億円)	2009	2010	対前同	対計画
売上高	4,289	3,795	-11.5%	-4.1%
タミフルを除く製商品売上高	3,429	3,574	+4.2%	-0.1%
タミフルを除く国内製商品売上高	3,093	3,244	+4.9%	-0.1%
営業利益	826	662	-19.9%	-5.4%
売上比	19.3%	17.4%		
純利益	566	414	-26.9%	-3.7%
売上比	13.2%	10.9%		

2010年度の総括

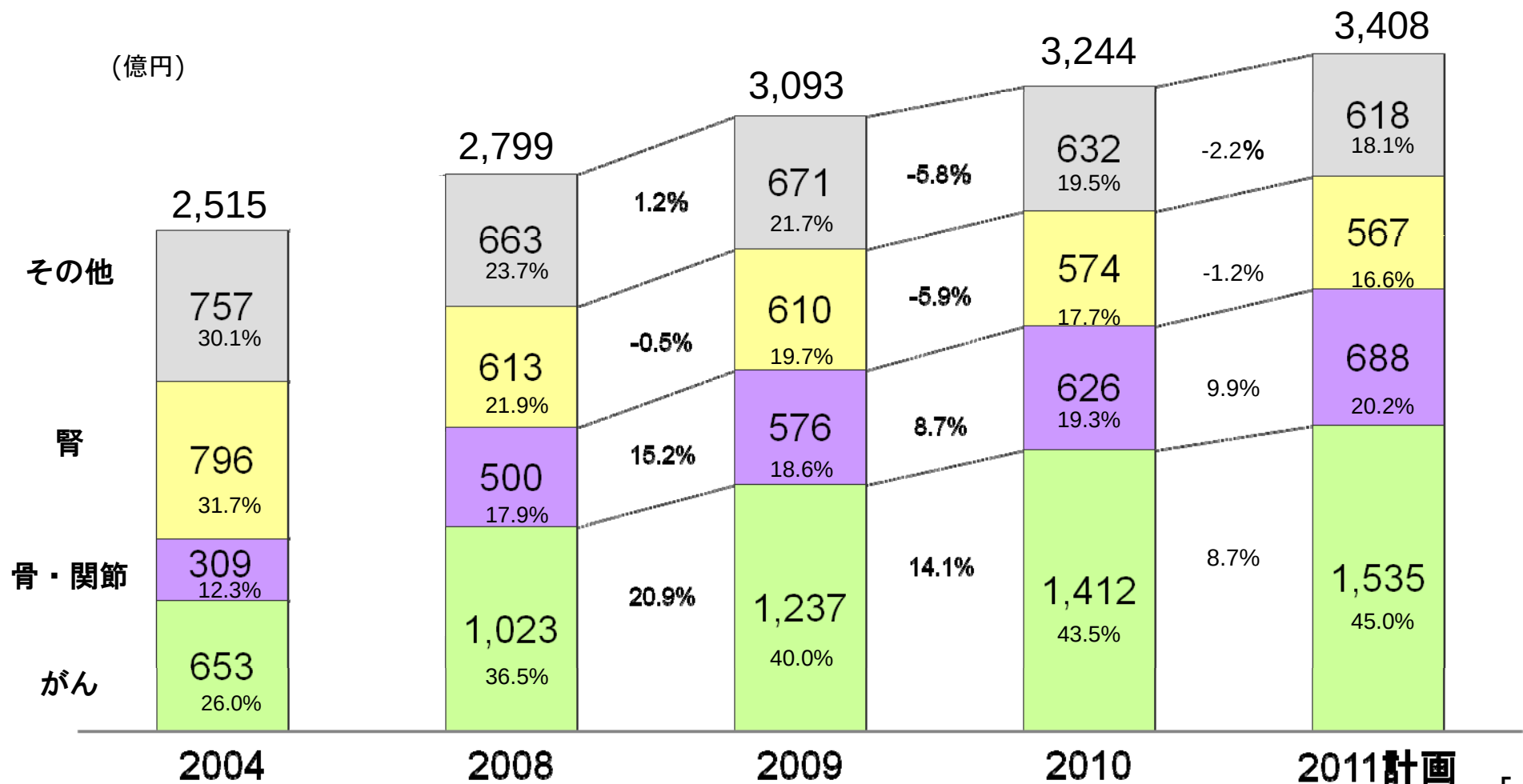
- タミフルを除く国内製商品売上高：4.9%増
- Actemraの米国販売開始
- エポジン 自己血貯血 承認
- アクテムラ、アバスチン 全例調査解除
- 2プロジェクト/4 製品の承認申請提出



営業面、研究開発面ともに順調な進捗

タミフルを除く領域別国内売上

がん、骨・関節領域の売上・比率が伸長



研究開発での進展①

<新たにPoCを取得したプロジェクト>

がん領域

T-DM1(RG3502) 乳がん

抗HER2ヒト化モノクローナル抗体 薬剤結合抗体

がん領域

GA101(RG7159) 非ホジキンリンパ腫

ヒト化抗CD20モノクローナル抗体

その他
領域

tofogliflozin(CSG452) II型糖尿病（自社品）

SGLT2阻害剤

研究開発での進展②

<新たに臨床試験を開始した自社品目>

がん領域

AF802 非小細胞肺癌
ALK阻害剤

がん領域

PA799 固形がん

骨・関節
領域

SA237 関節リウマチ
ヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体

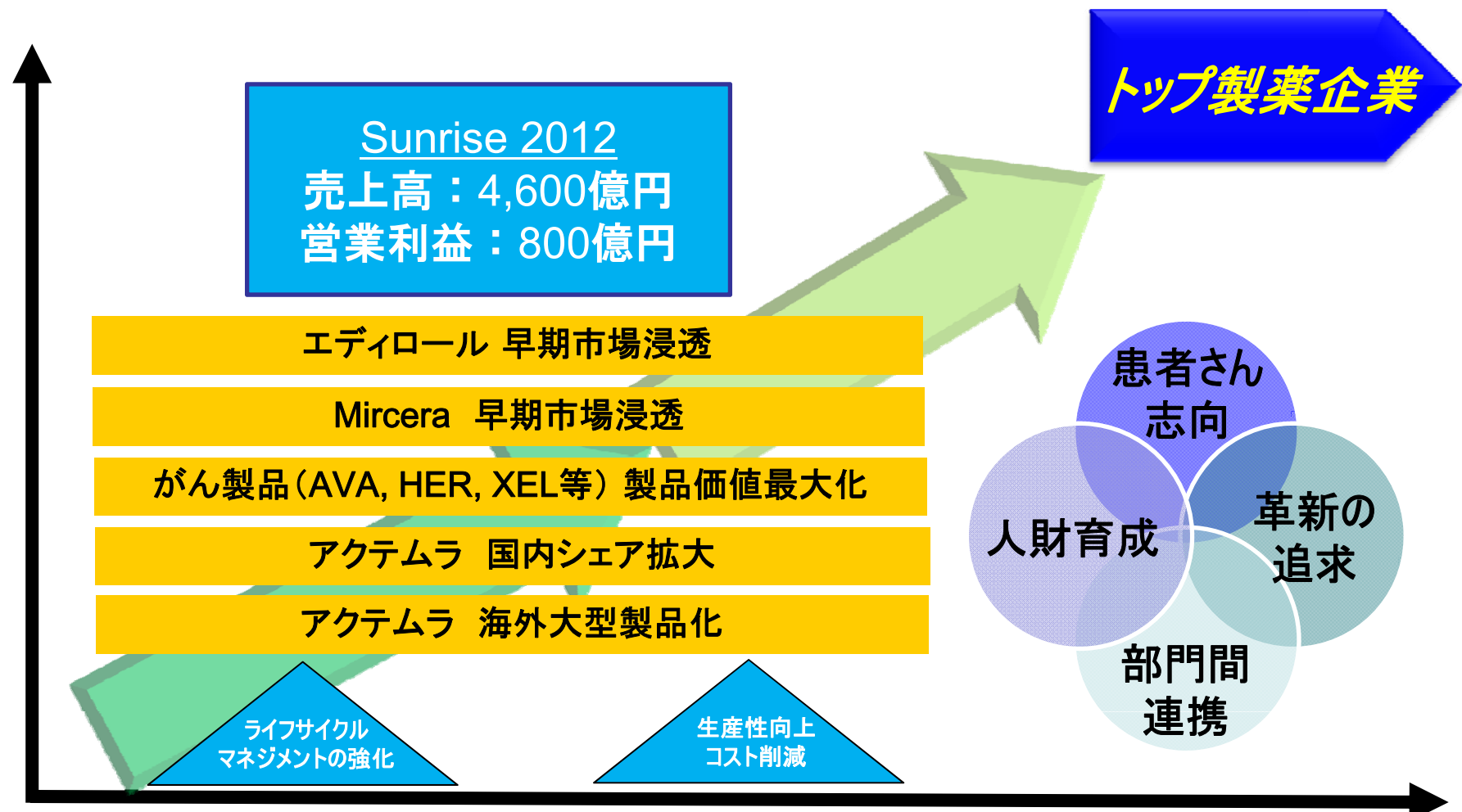
2011年12月期計画

**新製品の発売、既存製品の順調な浸透を見込み
増収増益を予想**

(億円)	2010	2011計画	前同比
売上高	3,795	4,030	+6.2%
タミフルを除く製商品売上高	3,574	3,795	+6.2%
営業費	962	1,010	+5.0%
売上比	25.3%	25.1%	
研究開発費	547	592	+8.2%
売上比	14.4%	14.7%	
営業利益	662	750	+13.3%
売上比	17.4%	18.6%	
当期純利益	414	425	+2.7%
売上比	10.9%	10.5%	

トップ製薬企業に向けて

Sunrise 2012を達成し、その先のトップ製薬企業を目指す



2010年12月期 連結決算概要

中外製薬株式会社
常務執行役員 CFO
板谷 嘉夫

2011.2.2/3

2010年12月期（通期） 連結決算概要

■ タミフル売上高の大幅な変動により減収減益

- 売上高3,795億円（▲11.5%） 営業利益662億円（▲19.9%）
- タミフル売上高 ▲580億円（▲76.1%）

■ タミフルを除くベースでは薬価改定を補い好成長

- 製商品売上高 +145億円（+4.2%）
 - ・ 好調の国内販売は薬価改定減を打ち消して成長（+4.9%）
がん領域は引き続き二桁成長を実現
 - ・ 海外製商品売上高は円高影響により微減（▲1.8%）
- 営業利益も増益

■ 期末配当 23円（年間40円）、配当性向52.5%

- ・ 公表予想より6円増額し、特別配当を含む前年と同額

損益の概要 1-12月実績

【億円】	2009年 1-12月		2010年 1-12月		増減	
		売上 (%)		売上 (%)		%
売上高	4,289		3,795		▲494	▲11.5
製商品売上高	4,191		3,756		▲435	▲10.4
タミフルを除く	3,429		3,574		+145	+4.2
タミフル	762		182		▲580	▲76.1
その他の営業収入	98		39		▲59	▲60.2
営業利益	826	19.3	662	17.4	▲164	▲19.9
営業外収益	94		24		▲70	▲74.5
営業外費用	16		35		+19	+118.8
経常利益	904	21.1	651	17.2	▲253	▲28.0
特別利益	3		6		+3	+100.0
特別損失	13		0		▲13	▲100.0
当期純利益	566	13.2	414	10.9	▲152	▲26.9

- 製商品売上高(タミフルを除く) +145億円
- タミフル* ▲580億円
- その他の営業収入 ▲59億円
マイルストーン収入の減少
- 営業利益 ▲164億円
- 営業外収支 ▲89億円
- 特別損益 +16億円

期中平均レート(円)

	2009年1-12月	2010年1-12月
CHF	86.20	84.17
EUR	130.10	116.32

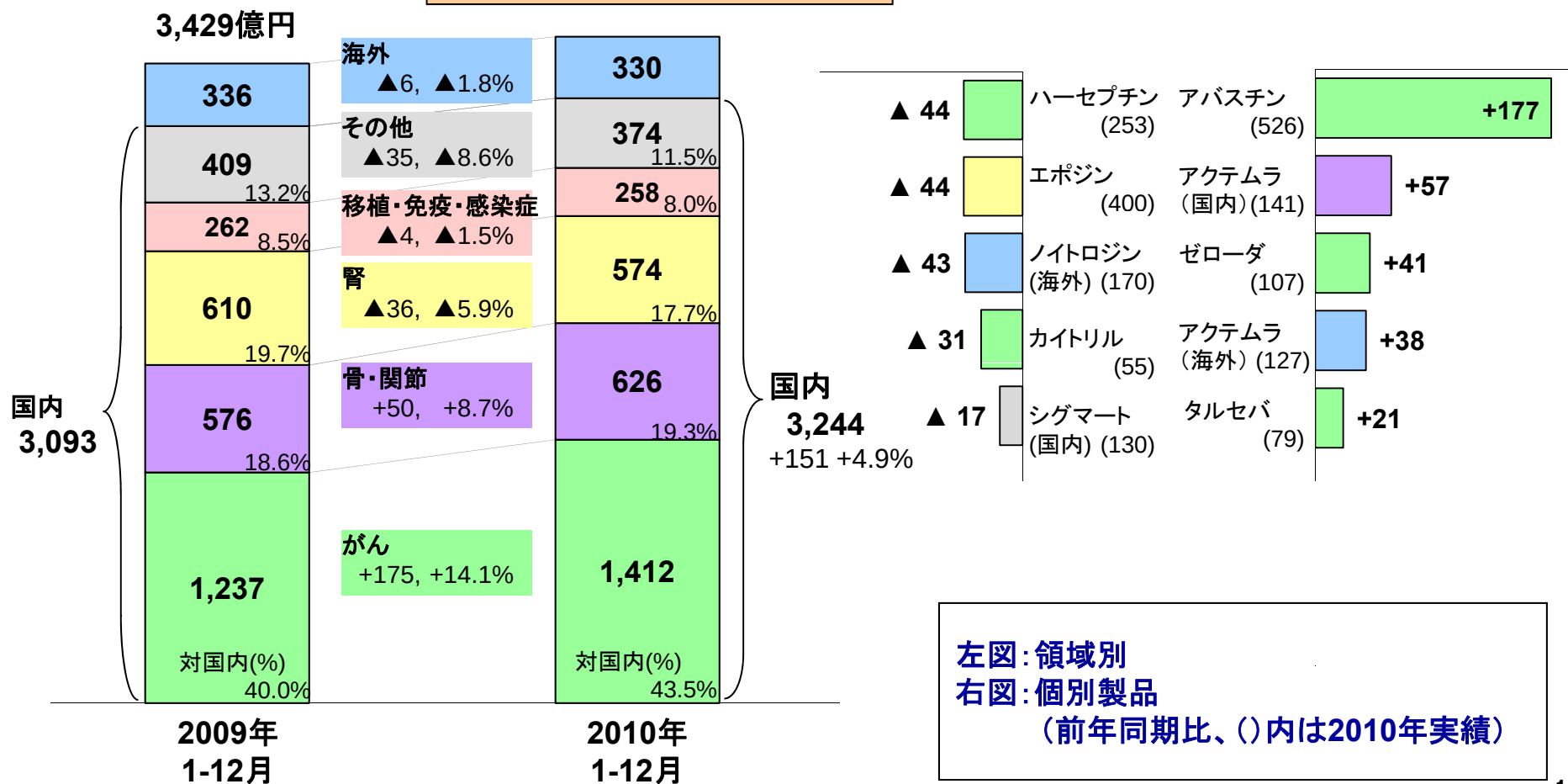
* タミフル 内訳

	2009年1-12月	2010年1-12月	増減
通常	362億円	16億円	▲346億円
行政備蓄等	400億円	166億円	▲234億円

製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-12月実績

【億円】

製商品売上高（タミフルを除く）
3,574億円（+145, +4.2%）



タミフルの売上状況

【億円】		決算期売上														シーズン 売上	定点観測数 (百万人)*
		2005年12月期		2006年12月期		2007年12月期		2008年12月期		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期			
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月		
通常	2004-05	232														246	1.47
	2005-06		119	99												218	0.92
	2006-07				37	50										87	1.01
	2007-08						52	14								66	0.66
	2008-09								57	110						167	1.27
	2009-10										252	14				266	2.02
	2010-11												2	53		55	—
	2011-12														25		
通常		351 (+265)		136 (-215)		102 (-34)		71 (-31)		362 (+291)		16 (-346)		78 (+62)			

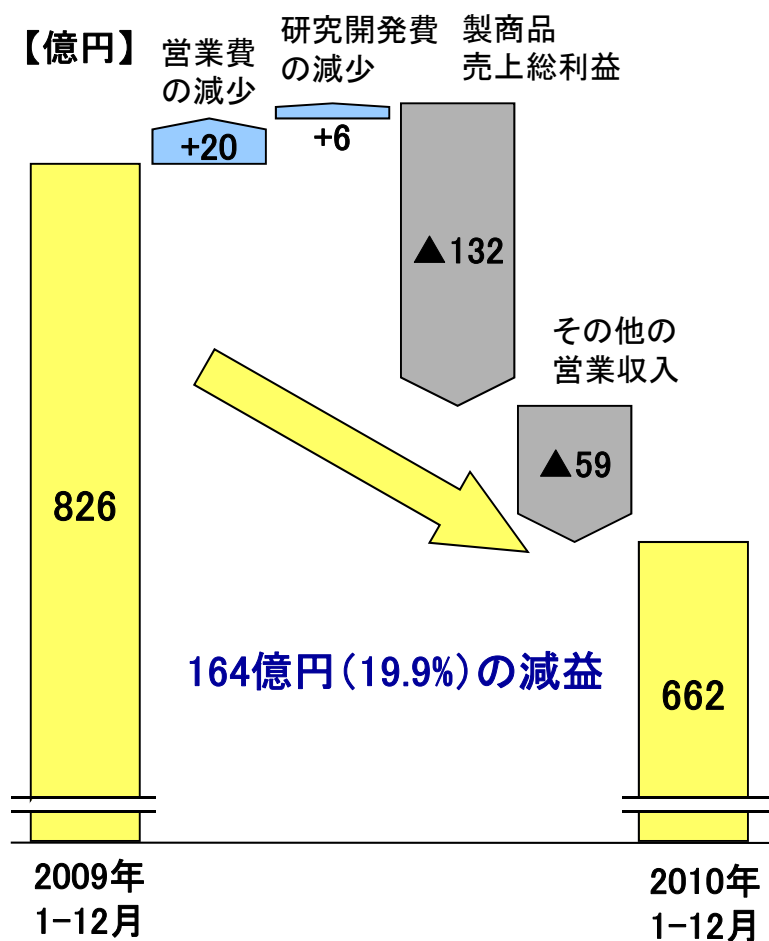
行政 備蓄等	2005-06		2	65												67
	2006-07				179	189										368
	2007-08						96	2								98
	2008-09								11	144						155
	2009-10										256	106				362
	2010-11												59	4		63
	2011-12														40	
行政備蓄等		2 (+2)		244 (+242)		285 (+41)		13 (-272)		400 (+387)		166 (-234)		44 (-122)		

合計		232	120	163	216	238	148	16	68	254	508	120	61	57	65
		352 (+266)		380 (+28)		387 (+7)		84 (-303)		762 (+678)		182 (-580)		122 (-60)	

黄色の網掛けは予想値

* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」 10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

営業利益の増減内訳 1-12月実績



【億円】	2009年 1-12月	2010年 1-12月	増減	(%)
売上高	4,289	3,795	▲494	▲11.5
売上原価	1,929	1,624	▲305	▲15.8
売上総利益	2,361	2,171	▲190	▲8.0
うち 製商品	2,263	2,131	▲132	▲5.8
うち その他の営業収入	98	39	▲59	▲60.2
営業費	982	962	▲20	▲2.0
研究開発費	553	547	▲6	▲1.1
営業利益	826	662	▲164	▲19.9

- 製商品売上総利益の減少
タミフルの減少 ▲132億円
- その他の営業収入の減少
マイルストーン収入の減少 ▲59億円
- 営業費の減少 +20億円
- 研究開発費の減少 +6億円

損益の概要 10-12月（第4四半期）実績

【億円】	2009年 10-12月	売上 (%)	2010年 10-12月	売上 (%)	増減	%
売上高	1,192		1,034		▲158	▲13.3
製商品売上高	1,157		1,023		▲134	▲11.6
タミフルを除く	953		1,000		+47	+4.9
タミフル	204		23		▲181	▲88.7
その他の営業収入	36		11		▲25	▲69.4
売上原価	495		428		▲67	▲13.5
売上総利益	697	58.5	606	58.6	▲91	▲13.1
営業費	283		247		▲36	▲12.7
研究開発費	175		148		▲27	▲15.4
営業利益	238	20.0	211	20.4	▲27	▲11.3
経常利益	244	20.5	208	20.1	▲36	▲14.8
当期（四半期）純利益	157	13.2	134	13.0	▲23	▲14.6

●製商品売上高（タミフルを除く）

	+47億円
アバステン	+52億円
アクテムラ（国内）	+20億円
リツキサン	+10億円
タルセバ	+7億円
ゼローダ	+7億円
アクテムラ（海外）	▲16億円
ノイトロジン（海外）	▲15億円
エポジン	▲13億円

●タミフル* ▲181億円

●その他の営業収入 ▲25億円
マイルストーン収入の減少

●営業利益 ▲27億円

* タミフル 内訳

	2009年10-12月	2010年10-12月	増減
通常	177億円	2億円	▲175億円
行政備蓄等	27億円	21億円	▲6億円

損益の概要 1-12月実績

【億円】	10月22日 修正予想		実績		差異	
	2010年 1-12月	売上 (%)	2010年 1-12月	売上 (%)		達成率 (%)
売上高	3,958		3,795		▲ 163	95.9
製商品売上高	3,908		3,756		▲ 152	96.1
タミフルを除く	3,578		3,574		▲ 4	99.9
タミフル	330		182		▲ 148	55.2
その他の営業収入	50		39		▲ 11	78.0
売上原価	1,708		1,624		▲ 84	95.1
売上総利益	2,250	56.8	2,171	57.2	▲ 79	96.5
営業費	1,000		962		▲ 38	96.2
研究開発費	550		547		▲ 3	99.5
営業利益	700	17.7	662	17.4	▲ 38	94.6
経常利益	687	17.4	651	17.2	▲ 36	94.8
当期純利益	430	10.9	414	10.9	▲ 16	96.3

●製商品売上高(タミフルを除く)

▲4億円

アバスチン +14億円

ハーセプチン +6億円

エビスタ +6億円

リツキサン +5億円

エポジン ▲12億円

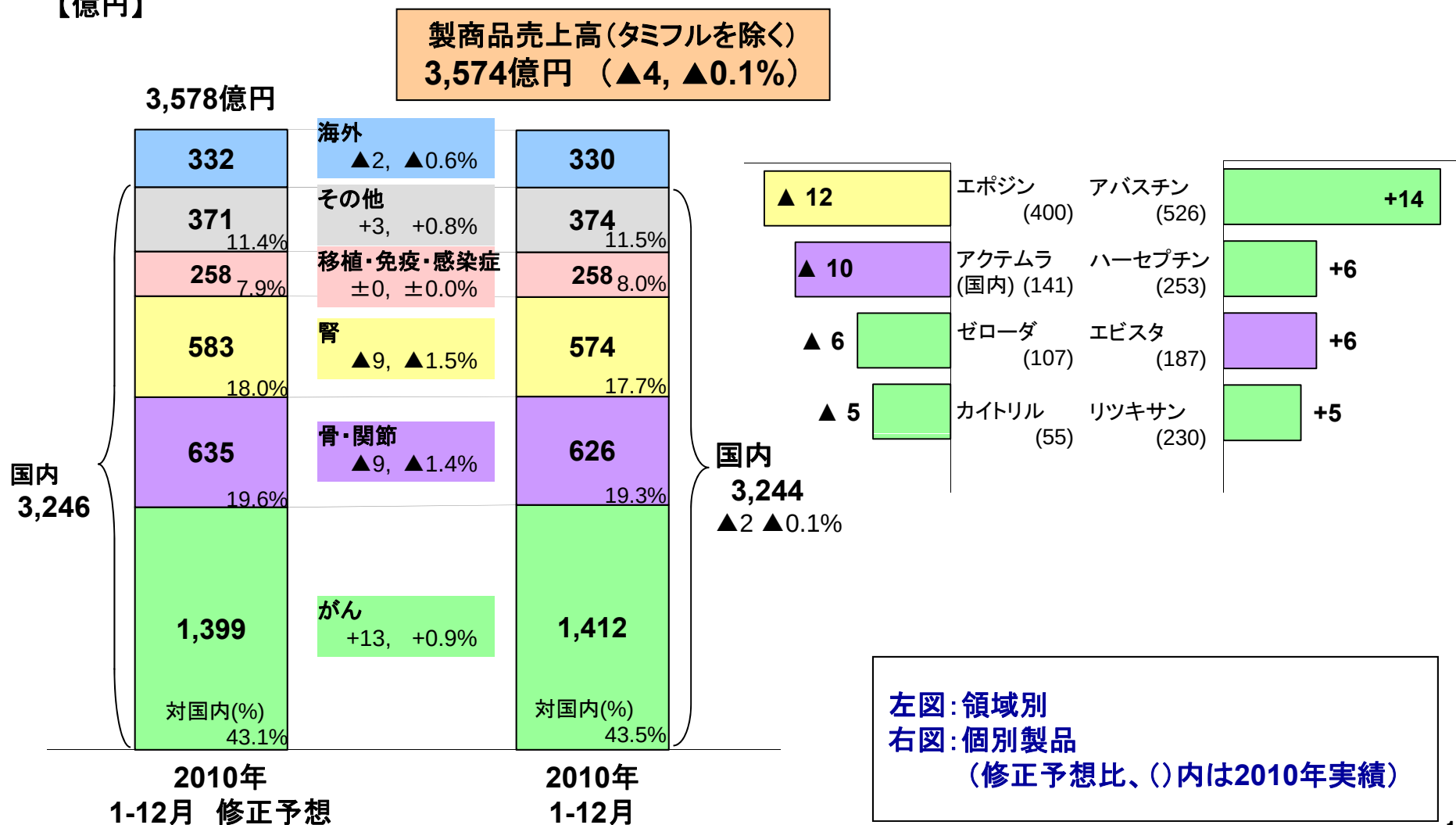
アクテムラ(国内) ▲10億円

●タミフル ▲148億円

●営業利益 ▲38億円

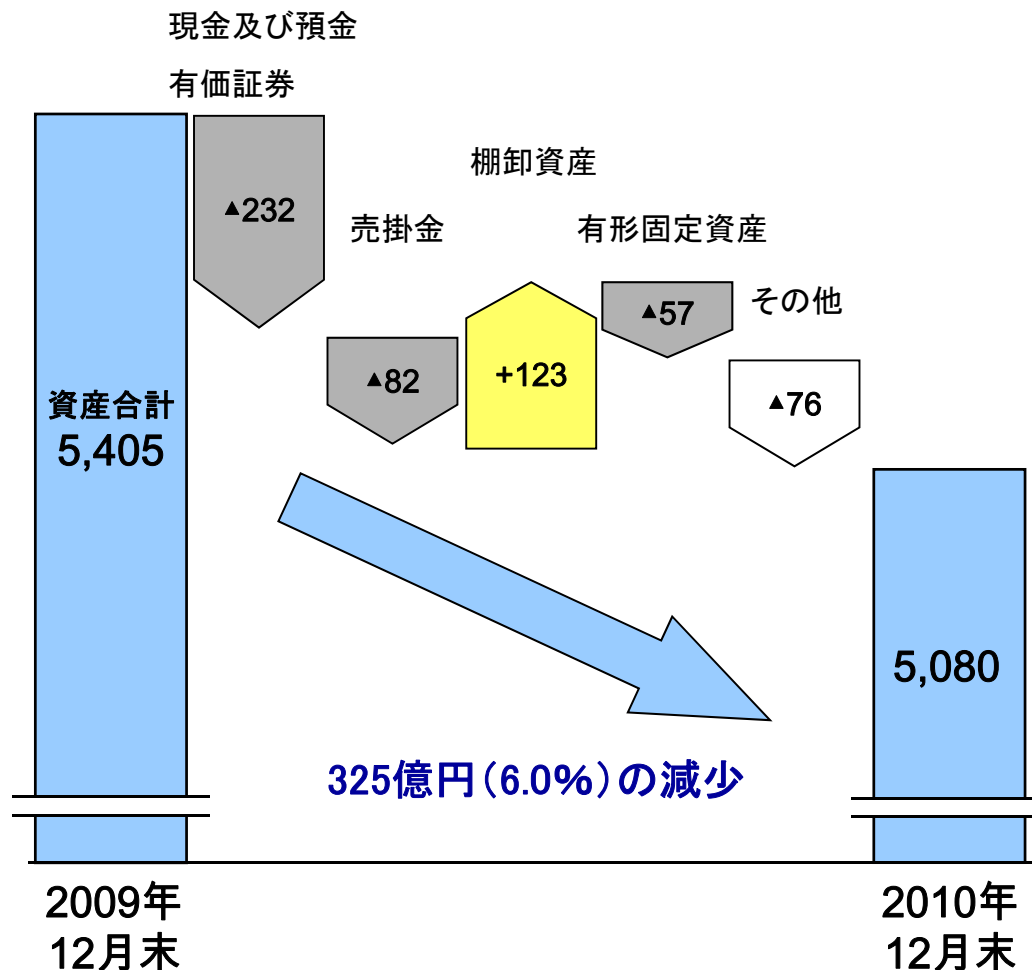
製商品売上高（タミフルを除く）の差異内訳 1-12月実績

【億円】



貸借対照表/資産の部

【億円】

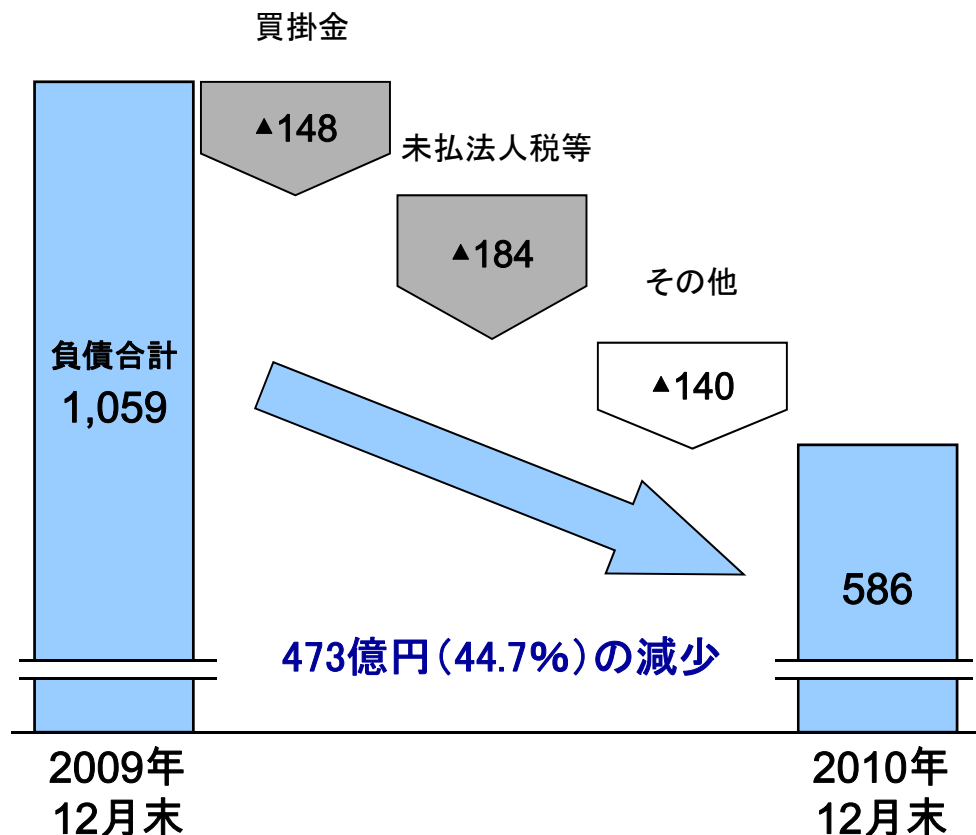


- 現金及び預金 ▲308億円
- 有価証券 +75億円
- 売掛金 ▲82億円
- 棚卸資産 +123億円

タミフル(通常) 売上高の減少
2009年10-12月: 177億円
2010年10-12月: 2億円

貸借対照表/負債の部

【億円】



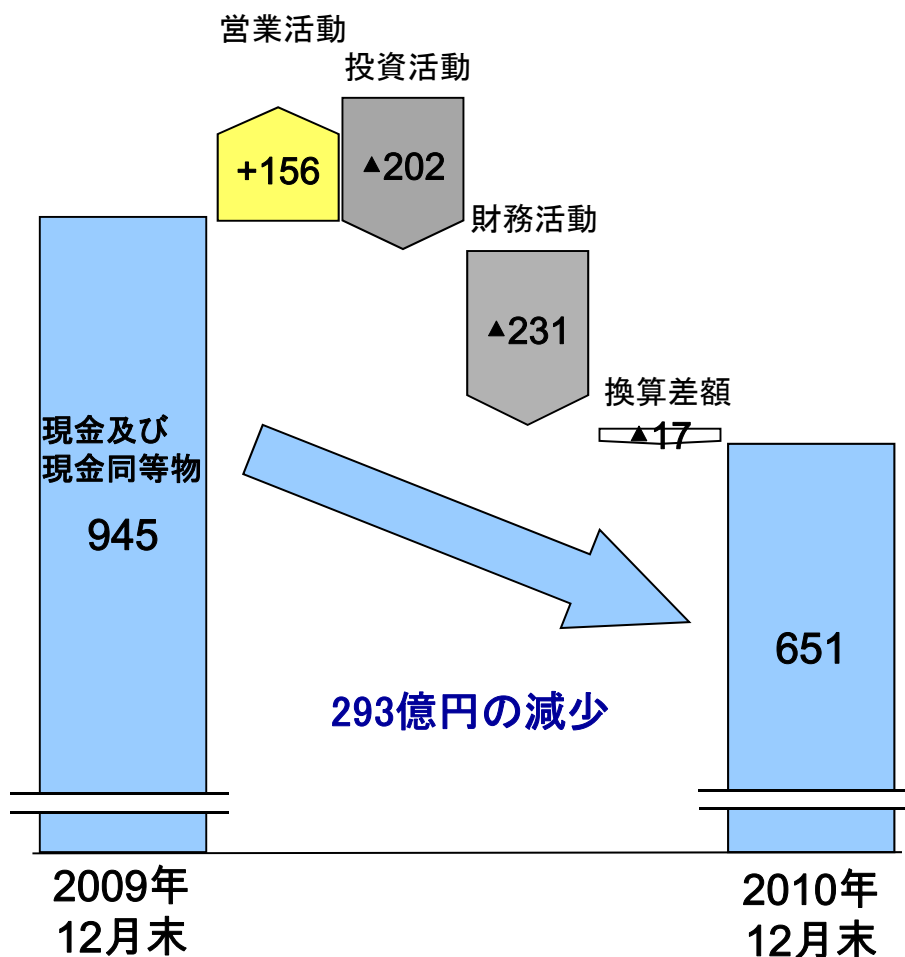
- 買掛金 ▲148億円
タミフル、サイトチェンジ品の仕入量の減少
- 未払法人税等 ▲184億円
- その他 ▲140億円
未払費用、未払消費税等の減少

自己資本比率

2009年12月末	2010年12月末	増減
80.0%	88.0%	+8.0%pts

キャッシュ・フロー 1-12月実績

【億円】



●営業活動に伴うキャッシュ・フロー	+156億円
税前純利益	+657億円
減価償却費等	+180億円
運転資本の増加	▲195億円
売掛債権の減少	+79億円
たな卸資産の増加	▲127億円
仕入債務の減少	▲147億円
法人税等の支払	▲389億円
●投資活動に伴うキャッシュ・フロー	▲202億円
定期預金の預入/払戻	▲9億円
有価証券・投資有価証券の取得/売却	▲59億円
固定資産の取得	▲136億円
●財務活動に伴うキャッシュ・フロー	▲231億円
配当金の支払	▲218億円

損益の概要 2011年1-12月予想

【億円】	実績		予想		増減	
	2010年 1-12月	売上 (%)	2011年 1-12月	売上 (%)		(%)
売上高	3,795		4,030		+235	+6.2
製商品売上高	3,756		3,917		+161	+4.3
タミフルを除く	3,574		3,795		+221	+6.2
タミフル	182		122		▲ 60	▲33.0
その他の営業収入	39		113		+74	+189.7
売上原価	1,624		1,678		+54	+3.3
売上総利益	2,171	57.2	2,352	58.4	+181	+8.3
営業費	962		1,010		+48	+5.0
研究開発費	547		592		+45	+8.2
営業利益	662	17.4	750	18.6	+88	+13.3
経常利益	651	17.2	755	18.7	+104	+16.0
当期純利益	414	10.9	425	10.5	+11	+2.7

- 製商品売上高
(タミフルを除く) +221億円
- タミフル ▲60億円
- その他の営業収入 +74億円
マイルストーン収入の増加
アクテムラに関わる収入の増加
- 営業利益 +88億円
- 営業外収支 +16億円

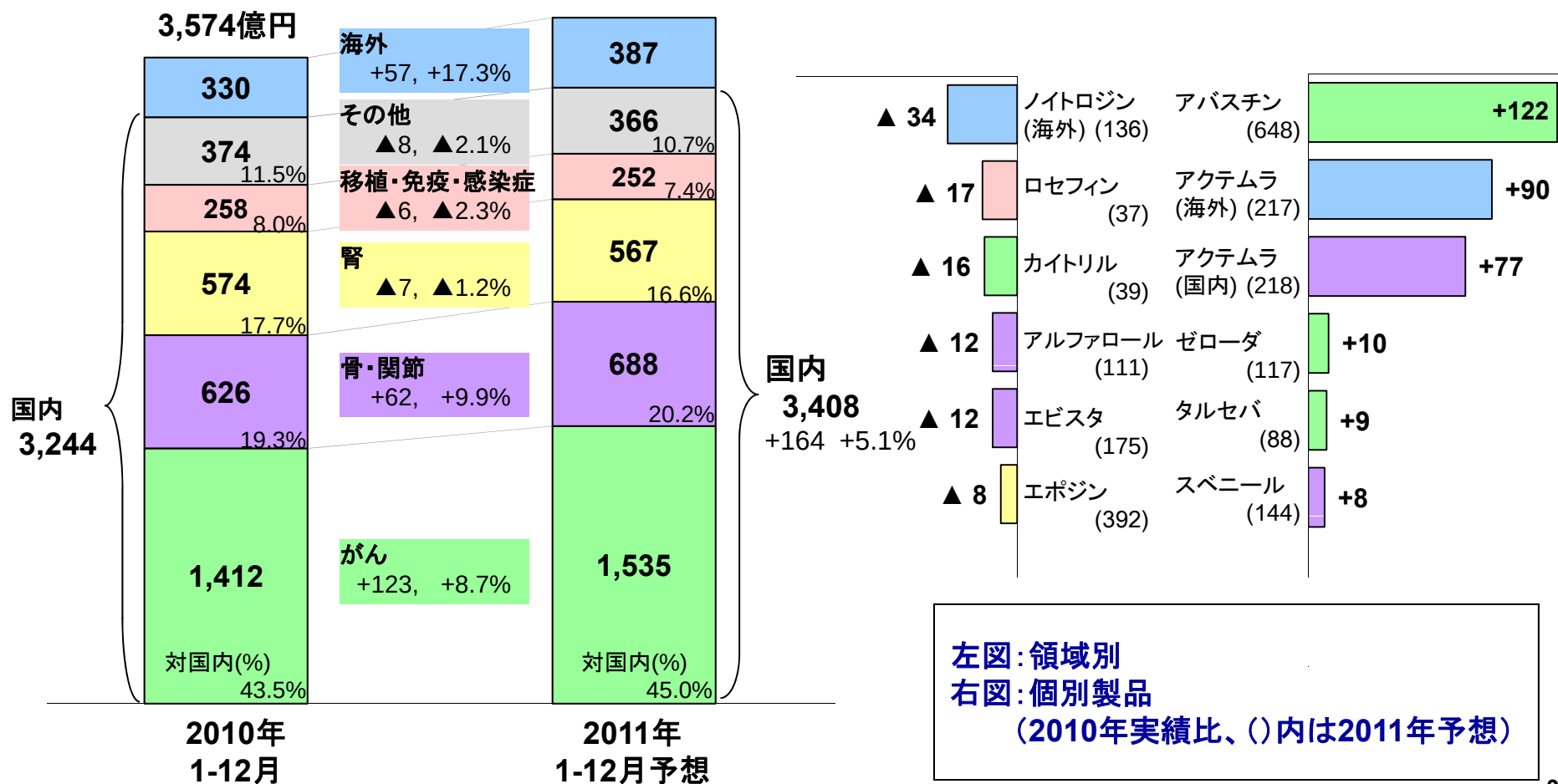
為替レート 2010年 2011年想定
 (円) 1-12月 1-12月
 CHF 84.17 85.00
 EUR 116.32 110.00

為替変動の営業利益への影響度
 想定より1円円高の場合(概算)
 CHF +3億円
 EUR ▲1億円

製商品売上高（タミフルを除く）の差異内訳 1-12月予想

【億円】

製商品売上高(タミフルを除く)
3,795 億円 (+221, +6.2%)



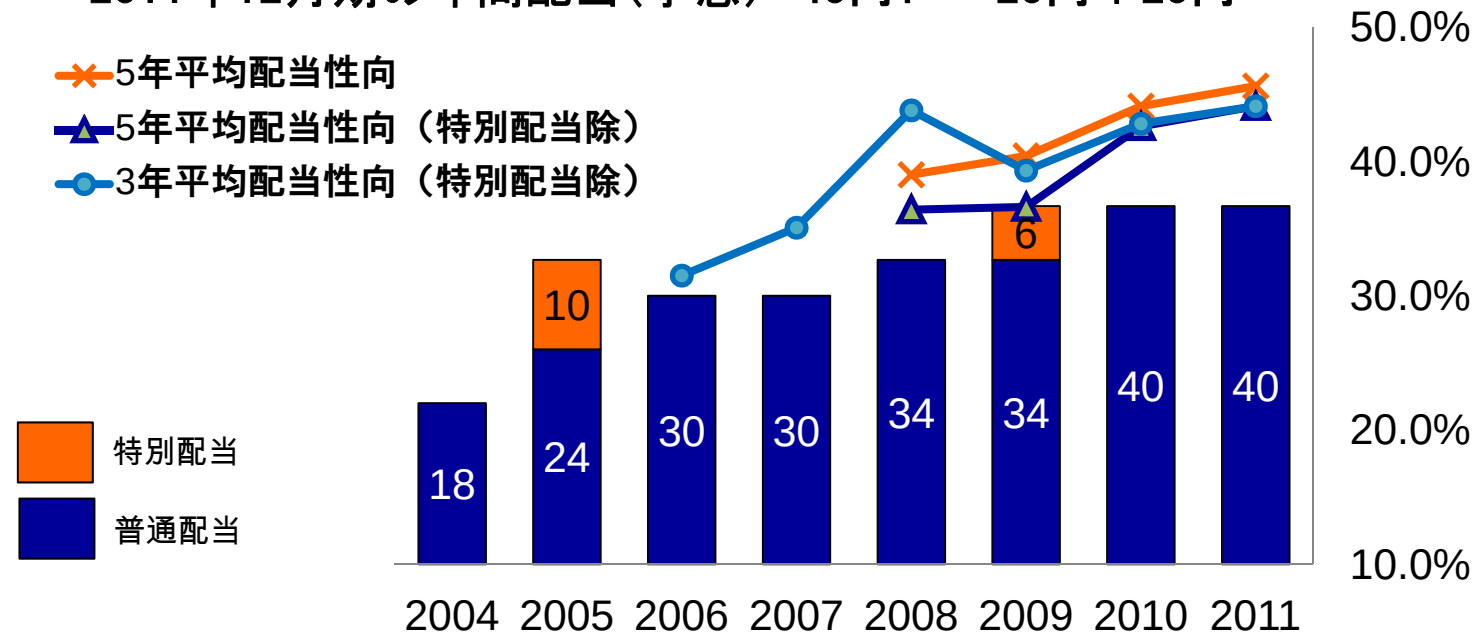
利益配分の方針及び当期・次期の配当

■ 方針

安定的な配当を基本とし、戦略的な資金需要や業績見通しを勘案した上で、平均して40%以上の連結配当性向を目標とする

■ 2010年12月期の年間配当(予定) 40円: 17円+23円

■ 2011年12月期の年間配当(予想) 40円: 20円+20円



開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
常務執行役員
ライフサイクル マネジメント・マーケティングユニット長
田中 裕

2011. 2.2/3

開発パイプライン（2011年2月現在）

	Phase I	Phase II	Phase III	Filed
がん	CIF/RG7167 - 固形がん CKI27/RG7304 - 固形がん GC33 - 肝がん★ PA799 - 固形がん GA101/RG7159 - 非ホジキンリンパ腫	MRA/Actemra - 膝がん TP300 - 胃がん等 AF802 - 非小細胞肺癌 WT4869 - 骨髄異形成症候群★ RG435/Avastin - グリオブラストーマ(再発例) RG1415/Tarceva - 肺がん (1 st line) RG3502 (T-DM1) - 乳がん	RG435/Avastin - 胃がん - 乳がん (アジュバント) - グリオブラストーマ RG1273/pertuzumab - 乳がん	EPOCH/Epogin - CIA RG435/Avastin - 乳がん RG1415/Tarceva - 膝がん RG340/Xeloda - 胃がん RG597/Herceptin - 胃がん
骨・関節	SA237 - 関節リウマチ★	RG484/Bonviva (oral) - 骨粗鬆症	MRA/Actemra - 関節リウマチ (sc) RG484/Bonviva (inj) - 骨粗鬆症	MRA/Actemra - sJIA (海外)
腎				RG744/Mircera - 腎性貧血
その他	RG1450 - アルツハイマー病	RG1583/taspoglutide - 糖尿病	CSG452/RG7201 - 糖尿病★ RG1678 (GLYT1) - 統合失調症★	RG442/Pegasys - B型慢性肝炎★ RG442+RG964/Pegasys + Copegus - 肝硬変★

開発の状況ーがん領域

自社品

GC33

肝がん 2010年10月 国内P1開始
2011年1月ロシュへ導出

自社品

WT4869 (WT1ペプチドがんワクチン)

骨髄異形成症候群 2011年2月P1/2開始予定
*大日本住友製薬との共同開発

導入品

アバスチン

結腸がん (アジュバント) 開発中止

P3試験で主要評価項目を達成しなかったため

開発の状況一骨・関節領域

自社品

エディロール (ED-71)

骨粗鬆症 2011年1月 承認

自社品

SA237

関節リウマチ 2010年12月 P1開始

開発の状況－移植・免疫・感染症、その他

自社品

tofogliflozin (CSG452)

Ⅱ型糖尿病 2010年11月 国内P3開始

導入品

ペガス/コペガス

C型代償性肝硬変 2010年10月 申請
2011年1月優先審査に指定

導入品

ペガス

B型慢性肝炎 2011年1月 申請

導入品

GLYT 1 (RG1678)

統合失調症 2011年1月 P3国際共同治験開始

自社品

NA808

C型慢性肝炎 開発中止

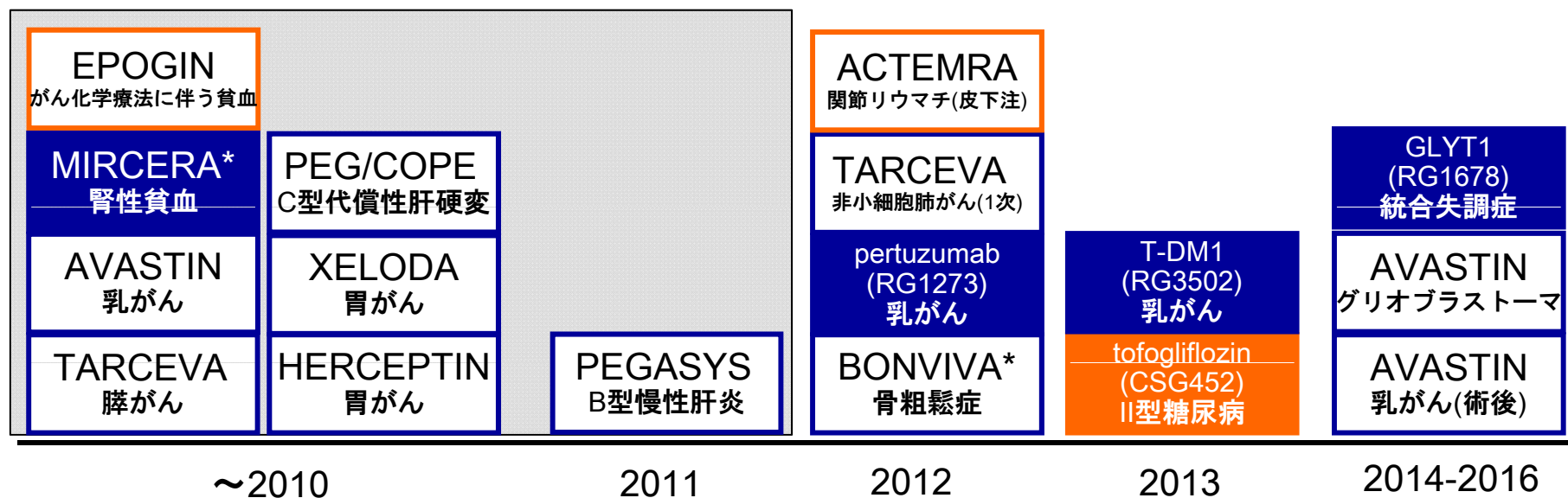
当初予定した有効性基準に達しなかったため

今後の申請予定（PoC取得済製品・開発品）

■ 2012年以降も毎年、新製品/適応拡大等を申請予定

新規 適応拡大
 自社品 導入品

申請済み



*海外製品名

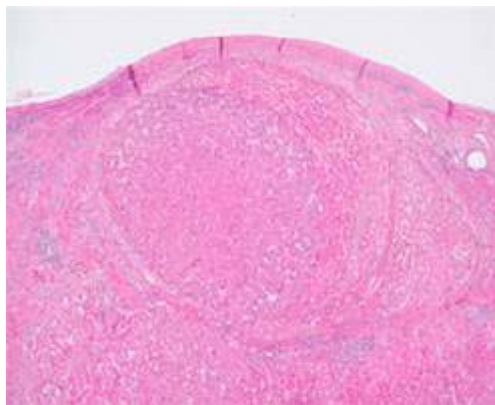
GC33の作用機序

- Glypican-3 (GPC3) はHeparan sulfate proteoglycanファミリーに属する膜蛋白の一つ
- GPC3は肝がんでは発現が高まっていることが報告されている
 - 肝がんにおける発現率：70-80%
 - 疫学情報：日本での患者数約4万人
- GC33は、肝がんの細胞上のGPC3に結合した後、宿主の免疫細胞を活性化し、抗体依存性細胞障害活性（ADCC）を誘導することで抗腫瘍効果を示すと考えられる
- 現在海外・国内ともにP1実施中

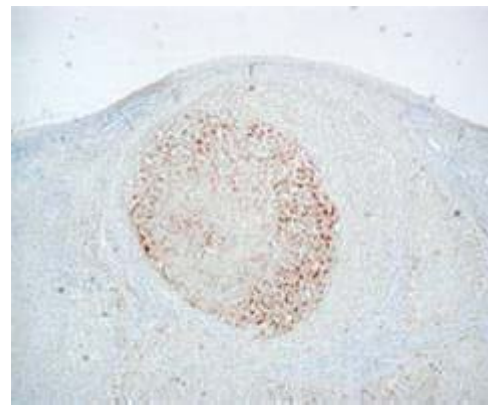
GC33とバイオマーカーの同時開発

- バイオマーカー探索による個別化医療の推進をめざし、免疫組織染色による診断薬の同時開発をロシュ（Ventana社）と進めていく

HE染色



抗GPC3抗体を用いた
免疫組織染色



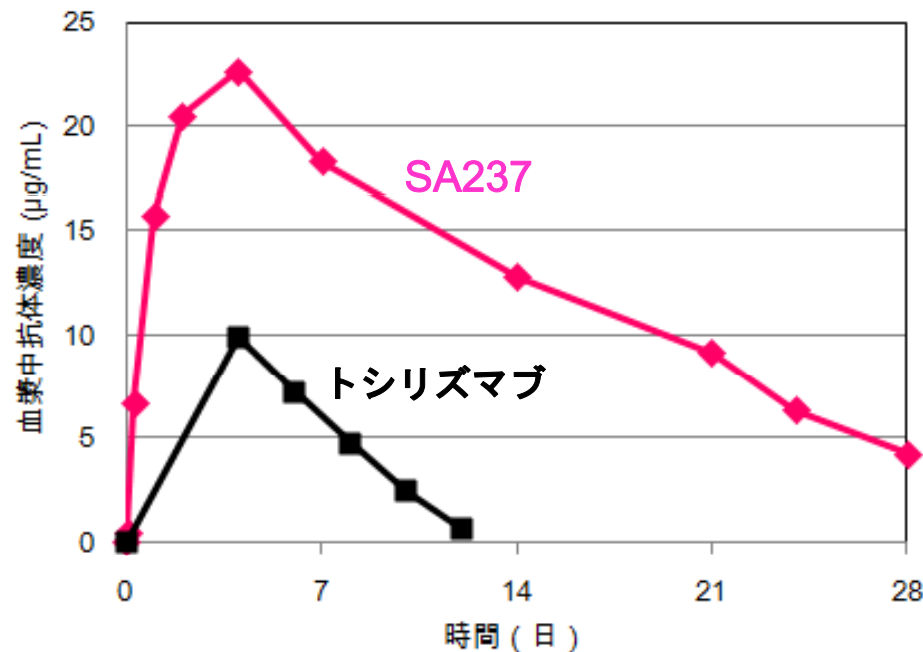
SA237について

- インターロイキン6 (IL-6) は、リンパ球やマクロファージなど様々な種類の細胞より産生され、細胞の分化、増殖など多様な生理作用を持つ物質として知られている
- トシリズマブ（アクテムラ）はIL-6受容体に対する抗体であり、炎症反応で中心的な役割を果たすIL-6の作用を選択的に阻害する
- トシリズマブは関節リウマチで有効性が認められている
- SA237は、トシリズマブに中外独自の抗体工学技術を適用したfollow-on抗体である
- SA237は、トシリズマブと同様の薬効と安全性を持ちながら血漿中滞留性が改善され、利便性が向上することが期待されている

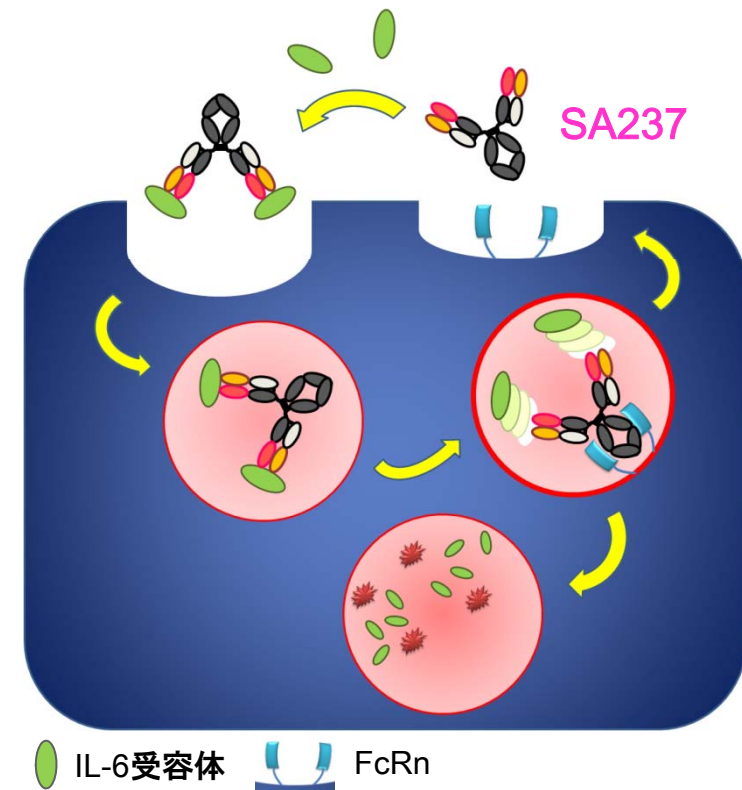
SA237の作用機序

- SA237に適用された抗体工学技術は、Nature Biotechnology誌に掲載され、高い評価を受けている

SA237はトシリズマブと比較して、
血漿中滞留性が改善している
(動物実験の結果より)



SA237に適用されている抗体工学技術の
作用メカニズム；1分子の抗体が繰り返
し標的に結合可能となる



アクテムラの海外開発状況

■ ロシュが現在実施中の開発プログラム

□ RA関連 4プログラム

目的	試験名	試験内容
臨床データの創出	FUNCTION	早期RA患者を対象
	ADACTA	ヒュミラとのhead-to-head試験
皮下注製剤 P3試験	SUMMACTA	静注製剤と皮下注の2群
	BREVACTA	実薬とプラセボの2群

□ RA以外 3プログラム

適応症	試験名	試験内容
sJIA	TENDER	欧/米 2010年10月申請 優先審査に指定
強直性脊椎炎	BUILDER 1	TNF未治療例を対象
	BUILDER 2	TNF無効例を対象

未承認薬・適応外薬の開発要請への対応状況

■ 未承認薬・適応外薬検討会議

医療上の必要性が特に高い未承認薬・適応外薬について開発要請
当社は下記8品目10適応が該当

開発要請	製品	適応症	現在の開発状況
2010年5月21日 開発要請分	ゼローダ	進行再発胃がん	申請済み
	タルセバ	進行再発膀胱がん	申請済み
	アバスチン	進行再発乳がん	申請済み
	pulmozyme	嚢胞線維症	前向きに協議中
2010年12月13日 開発要請分	アバスチン	卵巣がん	公知申請への該 当性に係る企業 見解提出済み
	ハーセプチン	HER2陽性転移性乳がんにおける 3週間1回投与の用法用量追加	
	ハーセプチン	HER2陽性乳がんに対する術前化学療法	
	カイトリル	放射線照射に伴う消化器症状	
	セルセプト	小児腎移植	
	バクトラミン	ニューモシスティス肺炎の治療及び予防	

お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：広報グループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：相川、広瀬、荒木、宮田

投資家の皆様：IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、渡辺、時田、喜多村